

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201570		
法人名	有限会社ほおずき		
事業所名	グループホームCHIAKIほおずき神戸伊川谷		
所在地	兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬282号		
自己評価作成日	平成25年7月4日	評価結果市町村受理日	平成25年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14
訪問調査日	平成25年7月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔と挨拶 地域の行事に参加している バザーや夏祭りで施設を地域に解放している 提携医に状態報告を毎日行っている。24時間、提携医の指示を仰ぐことができる サービスをあまり施設内で済むように整えず、地域に出かけるようにしている。 お一人おひとりのペースに合わせて生活して頂いている 食事作りを入居者様と一緒に作っている
---

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①『人』重視の運営・『人』として接する事に最重点を置き、『認知症』は一つの個性である(認知症という事実を背を向けると言う意味ではなく)という理解の下、職員はじめ関係者が共同生活の場を創造している。②楽しみ事の多い豊かな生活・ほぼ毎月実施されている外食ツアー(寿司、イタリアン、和食、中華他)に加え、頻度上げての食パーティー(焼肉、手巻き寿司、餃子、鍋、流しそうめん、たこ焼き、中華、かき氷、フルーツ他)やおやつ作り(かぼちゃプリン、チョコムース他)、地域福祉センターでの催事(腹話術、フラダンス、野点、大正琴、手芸他)やふれあいサロン喫茶への参加、近隣の園児(幼稚園、保育園)来訪による憩いのひと時、学習療法やりハビリ(立ち上がりや歩行訓練)、レクリエーション(風鈴づくり、絵手紙づくりや紙芝居他)等、日常にアクセントをつけたり現存能力の維持・継続に寄与する取り組み等を多岐にわたり演出している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎日唱和している。理念の勉強会をしている。また、新人研修の勉強会などで、理念を具体化した行動を話し合い、実践に繋げている。	法人理念「えみがこぼれる家庭 それが私のほこりです」を中核に、今年度事業所テーマ「今、この瞬間を大切に」を掲げ、全職員が同じベクトルに向かって日々の運営に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は、近所の方に、挨拶するようにしている。回覧板を回している。近隣の方が子犬を連れて遊びに来て下さる。掲示板前のベンチで買物帰りの方が一休みされている。	自治会に加入し、地域(福祉センター)の催事(フラダンス、腹話術等)に出かけたり、事業所行事にボランティアの協力を仰いだり、双方向での交流が実践されている。園児との交流やトライやるウィークの受入れも定例となっている。「まさか」の時の『となり組』感覚での付き合いをしている。	今後も、地域の社会資源として、認知症ケアの理解と浸透への積極的な取り組みに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を管理者と職員2名で行っている。掲示板を通して、地域包括主催の勉強会の案内や、健康情報などを発信している。夏祭りやバザーの際、施設を解放し、案内している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、各階の近況報告を行い、地域包括やご家族からご要望、助言等募っている。助言等を頂いた際は、実際に可能な対応を全体会議で話し合い、実践に活かすように努めている。	運営推進会議では、事業所よりの情報発信だけにとどまらず、地域防災ネットワークや重度化・終末期の対応等様々なテーマで意見交換をおこない、サービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で地域包括の方から助言を頂いたり、情報を頂いたりしている。地域包括が主催する介護教室に参加したり、介護教室のポスターを掲示して案内したりしている。	地域包括支援センターとの連携を密にし、事業運営における多様なテーマでの助言をいただいている。地域包括支援センター主催の介護教室についても協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中はできるだけ施錠はせず、自由に出入りできるようにしている。各階の扉も職員が1名体制の時間帯以外は施錠していない。ベッド柵は拘束にならないように1点柵や3点柵で使用している。転倒などの事故が起きた場合は、話し合いの機会を設け、拘束しない対策をするようにしている。定期的に勉強会を行っている。	職員は、本部主導の基本研修に事業所単位での事例検討等も含めた研修・勉強会により身体的拘束等の弊害については十分理解している。安全面での案件が生じた場合には、権利擁護に重点をおいた対応策を話し合い施行している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を実施している。法律上の虐待だけでなく、普段からの不適切なケアがないかなどの振り返りも勉強会で実施している。	高齢者虐待へと繋がる恐れのある「不適切なケア」のレベルから職員同士で確認し合いケアに取り組んでいる。職員のメンタルヘルスについては、『セルフケア』の勉強会やコミュニケーション重視の『ラインケア』を実践している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1年に1度勉強会を実施している。活用をしたり導入したりする機会は少ない。	現在、成年後見制度の活用者がおられる。地域包括支援センターの協力の下、事例検討を含めた研修を実施している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、必ず2人で行うようにし、契約書を読み上げて説明している。解約は管理者が1人で手続きをしている。改定などはまずお電話で説明してから、書面を送るようにしている。いずれも、疑問点や不明点がないかを確認し、信頼関係のもとで行うように努めている。	契約前に見学・質疑応答・ご本人との面談等をおこない、相互に不安・疑問等がない状態にして契約を締結している。重度化・終末期に対する方針も説明し、了解いただいている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご意見、要望をお聞きしたり、ご家族の来訪時にお聞きするようにしている。要望があった場合は、各階の連絡ノートで伝達したり、会議で対応を話し合ったりしている。	運営推進会議、来訪時、電話等多様なチャネルで聴き取りの機会を設けている。直近では衛生面(ゴミ管理)についてのご意見をいただいたが、直ぐに対応した。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回、各階ごとのミーティングと全体の会議があり、意見や提案を取り入れながら運営している。いろんな意見があり、全員が納得できないことが多い。	フロアミーティングや全体会議の場や『マイチャレンジ』の面談時に意見・提案を汲み取る機会を設けている。本部職員の定期訪問時にも聴き取りの機会がある。ボトムアップの風土を意識した「実践の中から考える」体制ですすめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を行ったり、役割を持って頂いてモチベーションを高めるように気を遣ったり、働きやすい環境作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社で新人、中堅、主任、施設長と分けての研修がある。施設内では、職員が講師となって行う研修を月1回行っている。研修では人は育たない。コーチングやスーパービジョンなど現場でのトレーニングができていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の研修などを企画している。他施設や他機関から連絡がある研修を紹介している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時や入居時に時間をかけて希望を伺っている。様子観察を行い、様子観察を行い、傾聴し、早く信頼して頂けるように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時や、来訪時に小まめに情報交換をするようにしている。入居したばかりのときは夜に本日のご様子を連絡させて頂いている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望に沿った支援ができるように他機関のサービスも紹介し、利用してもらうこともある。リハビリを希望されてリハビリの機関を紹介し、導入するなど。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、食事作り、ゴミ出し、新聞を取りに行く、買物に行く、食材の運搬など、残存能力を活かし、できることは一緒にして頂けるよう支援し、共に生活する中で、一方的に介護されているのではなく、共に支え合って生活していくようにしている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に電話の対応であったり、面会など、無理のない範囲でお願いしている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来訪された際はゆっくりして頂けるように配慮したり、電話があった際には取り次いでいる。見慣れた場所にドライブすることもある。	来訪された知人・友人とのゆったりとした時間空間の演出や家族との外出、季節の手紙・はがきの作成・投函、以前の居住エリアへのドライブ等、今迄の関係性が保たれるよう支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行の度合いによって、他の方の行動が理解できずに口論になったり、それぞれの習慣の違いを許せず、口論になったりする。レクリエーションや誕生日会などで親睦を深めるように努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても、壁に飾る季節の写真を持ってきて下さるご家族がいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に入居者様、ご家族に希望や意向をお聞きしているが、不確かであったり、分からなかったりすることが多く困難である。日常の会話の中で本人の思いを知ることがあるため、職員が情報を共有しながらカンファレンスしている。	入居前のアセスメントに加え、ホーム生活でのご本人との会話や言動・仕草等からも個々人の「思い・意向」を察知し、それをカンファレンス等により共有している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に入居者様、ご家族に希望や意向をお聞きしているが、不確かであったり、分からなかったりすることが多く困難である。日常の会話の中で本人の思いを知ることがあるため、職員が情報を共有しながらカンファレンスしている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりのリズム、体調や気持ちを知り、サービス経過を記録に残し、情報を共有している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が中心となり、その人の立場になって職員同士で意見を出し合ってカンファレンスをし、ご家族とも意見交換をして、計画を作成している。イメージにならないよう、カルテに毎日評価を記録し、それを元に話し合うようにしている。	介護計画は、本人の思い・意向、家族の要望等に担当職員(パートナー)よりの情報等を踏まえ計画作成担当者がまとめている。カンファレンスにおいて現行介護計画と本人の現況の整合性確認(モニタリング)もおこなわれている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のサービス経過、日誌、連絡ノートなどに記録を残して共有している。個人サービス経過には毎日、評価する欄があり、記入している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外食や、鍼灸院によるリハビリ、公文学習療法、併設デイサービスでのカラオケ、訪問看護の利用など、施設内だけのサービスにとらわれないようにしている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容やスーパーなどできるだけ地域の資源を利用している。民生委員や自治会へ働きかけて、地域の福祉センターへ月2回、催物への参加と喫茶にでかけている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科と歯科の提携医があり、往診して頂ける。毎日、FAXや電話で状態報告を行い、指示を仰いでいる。提携医でない場合は、提携医に変更して頂くか、ご家族に受診の付き添いをお願いしている。いずれにせよ、体調不良の場合は医療を受けられるように支援している。	提携医(内科)による往診、体調不良時等には、毎日指示を仰ぎ対応している(24hオンコール)。歯科の訪問も受けており、口腔ケア含めて処置いただいている。家族による通院の場合は、その時の情報を漏らさずに聴き取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週3回出勤している。看護師がいるときは、情報を提供し、指示やアドバイスを頂いたり、医療的な処置をして頂いている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、介護サマリーや薬情を提供している。入院中はお見舞いに行き、情報を収集したり提供したりしている。退院時は、受け入れ可能かや、日程などを打ち合わせしている。	入院中は、入居者の不安感を軽減するため職員による面会(お見舞い)をおこなっている。退院時には、予後の不具合が生じないよう、カンファレンス等により連携をはかっている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の指針を説明し、同意を得ている。終末期には、もう一度、ご家族の意向を確認し、提携医や看護師、訪問看護と連携している。	そのような状況となった場合には、ご本人にとって望ましいケアとなるよう、関係者(家族、医師、看護師等)と相談しながらできる限りの支援となるよう取り組んでいる。ターミナルケア(精神的ケア含む)の研修として『死生観』についてを予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度、研修を行っている。定期的実施する回数を増やすようにしたい。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年に2回行っている。夜間想定訓練を行った。	年2回の消防訓練(日中帯・夜間帯想定)を実施している。事業所は、3ユニットあるため地域の協力も仰ぐ体制を敷いている。	今後も、地域ぐるみの災害対策についての協働に期待をします。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入るときは、ノックしたり、リビングにおられるときは入室許可を頂いている。入浴は同性介助を行っている。トイレ誘導のときは自尊心を傷つけないように配慮している。否定的な言葉を使わないようにしている。	入居者個々人の自尊心・羞恥心に配慮した支援となるよう取組んでいる。食事・清掃等の役割を担い、他の方々の役に立っていることを実感する事を通じ、ご本人の強み (IADL 含め) が維持・継続できるような日々となるようはかっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり会話する中で希望や願いをお聞きしている。ご自分で決めて頂くようとするが、意思疎通が難しい方はなかなか引き出すのが難しいので、表情や行動を観察できる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな決まりの中で動いているが、それに当てはまらない一人ひとりのペースを大切にしている。どのように過ごしたいか、意思表示をされない方が多い。希望があればなるべく沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お声かけし、会話をしながら洋服を選んで頂いている。同じ洋服にならないように気を遣っている。選べない方は気候にあった色合いのものを選んで頂いている。起床時だけでなく、お茶の時間にも整容して頂いている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物、食事作り、盛り付け、片付けなど一緒にして頂いている。手伝って頂く人が決まっている。会話の中で、好みをお聞きして、メニューに反映している。薄味、濃い味など難しい。	メニュー、食材購入、調理、盛り付け、配膳・下膳、後片付け等得意な部分を職員と協働している。菜園での収穫物を添え季節を感じたり、外食やイベント食も楽しんでおられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が連携して、食事、水分量の把握をし、摂取が少ないときは、好まれる物を提供したり、水分が少ないときはゼリーをお出ししたりしている。小食の方をどうしても心配してしまい、何とか食べて頂くようするときもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食の口腔ケアはできる方だけして頂いている。昼食後、夕食後は必要に応じて介助し、全員、口腔ケアができています。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	2時間ごとのトイレ誘導を行っており、汚染は軽減している。	入居者個々人の現況を踏まえ、排泄パターンやそのサインを見逃すことなく、極力トイレでの排泄が行える様支援(介助)している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、食物繊維の多い食物を提供したり、水分を摂取して頂けるように努めている。体操をしたり、必要に応じて、腹部マッサージをしている。便を柔らかくする薬や下剤を服用される方が多い。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めず、タイミングをみて、入浴前にご本人の意思を確認している。入浴時間は職員体制が2名以上の時間に限られている。入浴剤や菖蒲やゆずなどを入れて、入浴を楽しんで頂けるようにしている。	毎日入浴ができる状態にしており、最低でも週2回の実施となるよう図っている。ゆったり、ゆっくりとした入浴となるよう取組んでいる。入浴剤や季節湯(ゆず湯等)は好評であり、以前には外湯(温泉)利用も実施した。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事時間などで一定の時間に起きなければならないということしていない。その人に合った睡眠時間や習慣に合わせて体調をみながら休んで頂いている。睡眠剤を服用している人もいるが、温かい飲み物などを提供したり、傾聴して不安感を取り除くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテに目を通し、新しく処方された薬は薬情を見て理解している。状態の変化があるときは必ず提携医にFAXで連絡をし、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、食事作り、花の水遣りなど一人ひとりに合わせた役割を持って頂いている。気分転換になるよう行事やレクリエーションを行っている。個々の役割や楽しみを持って頂くためにもっとその人のことを知っていく必要がある。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食やドライブ、近隣のスーパーへの買物などに行っている。出かけたときに、出られないときもある。時間や日にちを変更して待ってもらうことも多い。記念日などはご家族と相談して外出したり、地域の福祉センターへ喫茶に行ったり、催物に参加したりしている。	散歩や買い物(スーパー)、ふれあいサロン喫茶や外食ツアー、ドライブ等は日常的な取組みである。特別な日には、家族と外出されたり、季節毎の遠足も楽しんでおられる。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が買物へ行かれた際は、所持して頂いたり、支払して頂いたりしている。普段は、所持されている方もいるが、ご本人は所持したい希望があるが、ご家族が反対されて持てない方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご家族の了解を得ている方は、自由に掛けて頂いている。ご家族が掛けてほしくない希望されている方は、電話操作を説明せず、かからないようにしている。手紙は、暑中見舞いや年賀状の支援をしている。手紙をもらってときは返信されるか伺っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1か月ごとに季節に合った飾り物や写真、花を飾っている。昔の音楽を流している。掃除は毎日、今日の環境整備の目標を決めて小まめに行っている。テレビを見ている方と、テレビの音がうるさいので、消してほしいという方があり、居室へ戻って頂くこともある。	広いリビングには、畳の小上がりやソファが設えられ、ご本人達が思い思いの時間を過ごせる環境となっている。季節の飾り付けや行事の写真等を掲示し日々の移ろいが実感できるようはかっている。庭やベランダでの花や野菜への水遣り等でも季節を感じることができるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側のソファや和室を利用してお一人になれるようにしている。玄関先のベンチでお一人でおられる方もいる。ロールスクリーンを付けて個室に近づくようにしたが、活用されていない。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の趣味、嗜好品を置いて頂いたり、馴染みのある家具や仏壇など持って来て頂いている方もいる。転倒時の危険性や異食の危険性などで、家具をあまり置かず殺風景な居室の方もおられる。	使い慣れた、馴染みの物品(家具、写真、仏壇等)を持ち込まれ居心地の良い居室となっている。洗面台が設置され衛生的である。また、ADLに配慮した支援もおこなっている。	今後も、利用者の生活歴や状態の変化に合わせて、家族と相談しながら居心地の良い居室作りの継続を願います。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングはトイレ、浴槽などには手摺りが設置してあり、できるだけ自立して行動できるようにしてある。トイレは場所によって、車いすの方は自力で方向転換できないスペースのところがある。		